

令和8年度 高岡市図書館協議会 意見交換要旨

令和8年8月7日(金)午前 10:00 から、高岡市生涯学習センター503 研修室において、高岡市図書館協議会を開催いたしました。(出席者:委員9名及び事務局)

事務局から資料説明を行ったところ、次のようなご意見やご提案をいただきました。

《意見交換要旨》

1 子供たちが紙の本に触れたり、本を楽しんだりできる図書館づくりに努めてほしい。

【委員】

この10年で、書店の数は大幅に減少し、子供たちが紙の本に触れる機会が減少している。

2 年齢層に応じた効果的な広報活動を行うべき。

【委員】

小学生はTikTok、30～40代の方はInstagram、高齢者や子供の親世代は「市民と市政」に目を通す人が多いなど、年齢層によって情報を得る手段が異なっているため、情報発信する側もそれを考慮して広報活動をするとうい。

読み聞かせや人形劇等、質の高い活動が多いので、よりよい広報活動で多くの方に参加してもらいたい。

3 親も子供も共に本に触れる機会を与えられることが必要。

【委員】

ある調査によると、10年前から、読書をしない子供が1.5倍に増えており、一番減り幅が大きいのは小4以上である。図書館から年代を絞って働きかけるのは、小4以上の子供とその保護者がよいのではないか。

スマホ時間が長い子供は読書時間が短い、読書時間が長い子供ほど語彙力が高くなっている傾向がある、という結果も出ている。

保護者が読書をしている姿を見せれば、子供も読書をするようになる。

親子で図書館を訪れるという家族も多いので、どの年代の子供に焦点を当てるかだけでなく、その親にもアプローチし、本に触れさせる機会を与えることが必要。

4 高校生による読み聞かせボランティアの活動を継続してほしい。

【委員】

中央図書館で、志貴野高校の生徒たちが読み聞かせボランティアをしている。実物の読み聞かせは、聞く子供たちだけでなく、読み聞かせをする生徒たちにも非常にためになると感じている。

5 「たかおか電子図書館」が小学校、中学校と継続的に利用できるようになり、生徒が喜んでいる。

【委員】

新しい電子図書館が、中学生も気軽に利用できるようになり、生徒から喜びの声があがっている。

6 5館のネットワークで情報提供をしながら、地域の特色を活かしたイベントを行っては。

【委員】

5館のネットワークを持っているということは、高岡市の強みである。

それぞれの地域館が地域の特色を出し、地域館に合ったイベントを開催することで、集客力を上げるとよいのではないか。

以上